

第121回新生ふくしま復興推進本部会議
第32回福島イノベーション・コースト構想推進本部会議
合同会議 議事録

- 日時：令和5年2月22日（水）16：00～16：08
- 場所：危機管理センター災害対策本部会議室（北庁舎2階）

【鈴木副知事】

ただ今から、新生ふくしま復興推進本部会議、福島イノベーション・コースト構想推進本部会議の合同会議を開催いたします。

早速、議題「福島国際研究教育機構の中期目標（案）」について、企画調整部長。

【企画調整部長】

まず、福島国際研究教育機構（F-R E I）に関する当面のスケジュールについて、参考資料1をご覧ください。昨年9月の立地場所の決定以降、年末の来年度政府予算案での設立初年度関連予算額146億円の決定や、先月末の法定の新産業創出等研究開発協議会の準備会合の開催、今回の議題である中期目標（案）の作成など、この4月1日に控えるF-R E I設立に向け、復興庁を中心とした国の準備が急ピッチで進められております。

次に、F-R E Iの制度設計における県知事意見について、参考資料2をお願いいたします。F-R E Iの制度設計においては、福島復興再生特別措置法に基づき、主務大臣は様々な段階で福島県知事の意見を聴取する体系となっており、昨年8月の基本計画の策定の際にも、主務大臣に対して県知事意見を述べてきたところですが、今般、参考資料3の通り、中期目標の作成に当たり、先週15日、福島県知事に対し、主務大臣から法定の意見聴取があったものです。

中期目標（案）と県知事意見（案）の概要につきまして、資料1をお願いいたします。この中期目標は、主務大臣が、基本計画に即して、7年間でF-R E Iが達成すべき研究開発等の運営に関する目標を定め、F-R E Iに指示するものでありますが、策定に当たって、主務大臣は、法に基づき、原子力災害からの福島の復興・再生の推進を図る見地から福島県知事の意見を聴くこととされております。

中期目標（案）の内容につきましては、F-R E Iが取り組む5分野それぞれにおける研究開発や産業化、人材育成について7年間で取り組む目標が記載

されているほか、その評価軸や評価指標が設定されております。

また、第一期となる令和11年度までの本中期目標期間においては、本格的に軌道に乗ることが見込まれる令和12年度からの第二期中期目標期間を見据えながら、「基盤作りと存在感の提示」に重点をおくこととされております。

県知事意見（案）の全文につきましては、資料2として添付しておりますが、その概要につきましては、資料1の右側をご覧ください。私どもとしては、中期目標が、F－R E Iが地域と共に世界に誇る研究開発成果を実現し、福島の復興・再生に資する目標となるよう、3つの視点から意見したいと考えております。

1つ目は、世界に誇る最先端の研究開発等の推進として、福島の優位性を発揮できる5分野の横断的研究の推進、世界に冠たる拠点としての魅力・知名度の向上を、2つ目は、地域に根差した取組の推進として本施設の整備前からの県内での研究活動や、県内の実証フィールド等の活用、県内関係機関等との適切な連携、機構の設置効果の広域的な波及などについて、意見したいと考えております。

さらに、3つ目は、そのために必要な土台となる国の取組として、施設の円滑かつ確実な整備と可能な限りの前倒しやF－R E I事務所内で主務大臣間の縦割りが横行することがないように、縦割りを排して山崎光悦理事長を支える総合的かつ安定的な支援、復興庁設置期限後も見据えた中長期的な枠組みでの予算確保、適切な指標の設定及び評価などについても、意見したいと考えております。

なお、今回の福島県知事への意見聴取後、同じく法に基づき、国の復興推進委員会、総合科学技術・イノベーション会議（C S T I）にも諮られ、中期目標は、4月初旬に決定、その後F－R E Iに指示される流れです。

最後に一言、申し上げます。研究開発は息の長い取組が必要ですし、福島浜通り地域等に、世界中の研究者に魅力的に感じてもらえる世界に冠たる研究機関を実現させることは、文字で書き表せるほど、そう簡単なことではありませんが、今後の福島の復興・再生の進展を見据えられたときに、これは何としても実現させなければならないものであります。

このため、県としても、F－R E I、国、市町村、大学、研究機関、企業、教育機関等と共に力を合わせ、県内関係機関の先頭に立って、F－R E Iがイノベーションの力で切り拓く福島の新しい未来創りをしっかりと支えてまいる覚悟です。

【鈴木副知事】

今の意見案に関して、何かありますか。
なければ、意見案のとおり提出することとします。
それでは、知事からお願いします。

【知事】

今年4月に設立される「福島国際研究教育機構（F－R E I）」は、原子力災害からの福島の復興・再生を進め、本県、東北の復興を実現し、さらに、日本、世界の課題解決にも貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」となるものです。

今回の中期目標は、今後の7年間でF－R E Iが達成すべき目標を定めるものであり、第一期の期間として、将来の礎を作り、方向付ける極めて重要なものです。

その達成に向けては、F－R E Iはもとより、国、県、市町村、大学や研究機関、企業、教育機関など様々な主体が共に力を合わせて、進むべき方向性を共有しながら、連携を一層強化していくことが必要不可欠です。

皆さんも、F－R E Iが地域と共に世界に誇る研究開発成果を実現し、福島イノベーション・コースト構想を更に発展させ、福島の復興・再生に資する拠点となるよう、関係機関としっかり連携をして取組を進めてください。

【鈴木副知事】

以上で、会議を終了します。